



金山町介護予防事業 「デジタル通いの場」について

デジタル通いの場の実施内容

開催前	金山町地域包括支援センターの担当者が参加者を確保 (9名程度)
説明会	事業開始前に参加希望者に対して概要・操作説明などを実施
事業実施	6月～8月の12回実施。毎回6～8名が参加
ふりかえり	事業実施後、ふりかえりを実施し感想や課題を共有

実際の様子①

通常は介護予防を目的とした運動
(ストレッチ・自己負荷筋トレ・脳トレなど) を実施している
【毎週月曜日午前】



運動指導員の前にタブレットを設置

実際の様子②

ICT機器への知識がある方も積極的に参加された



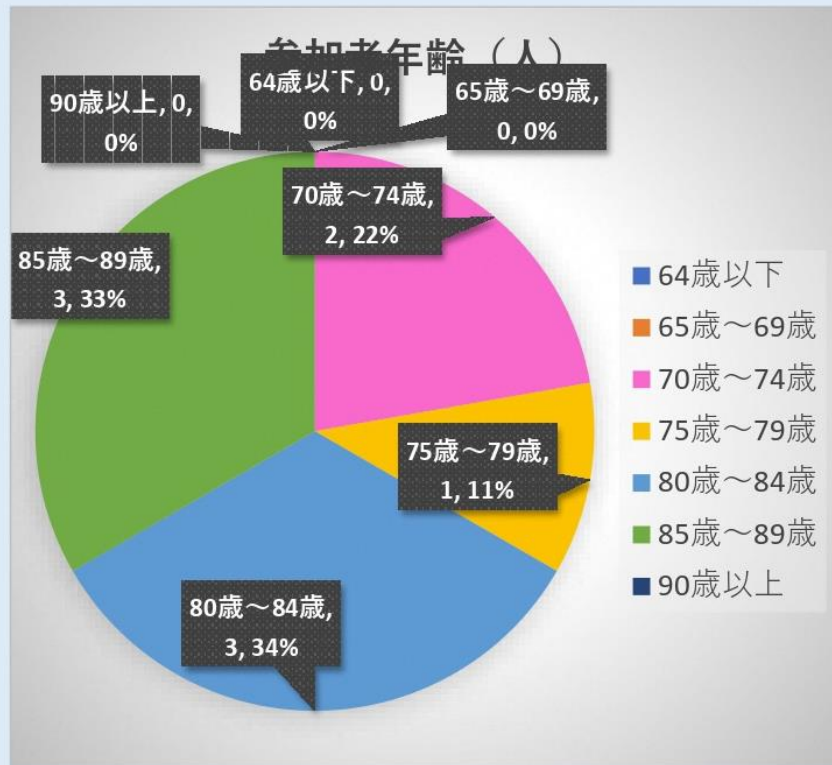
操作がわからず、機器持参でリアル参加された方もいた
(以降、リアル参加へ結びついた)

介護予防運動の休憩時は、知り合いの方々とコミュニケーションをとり楽しんだ

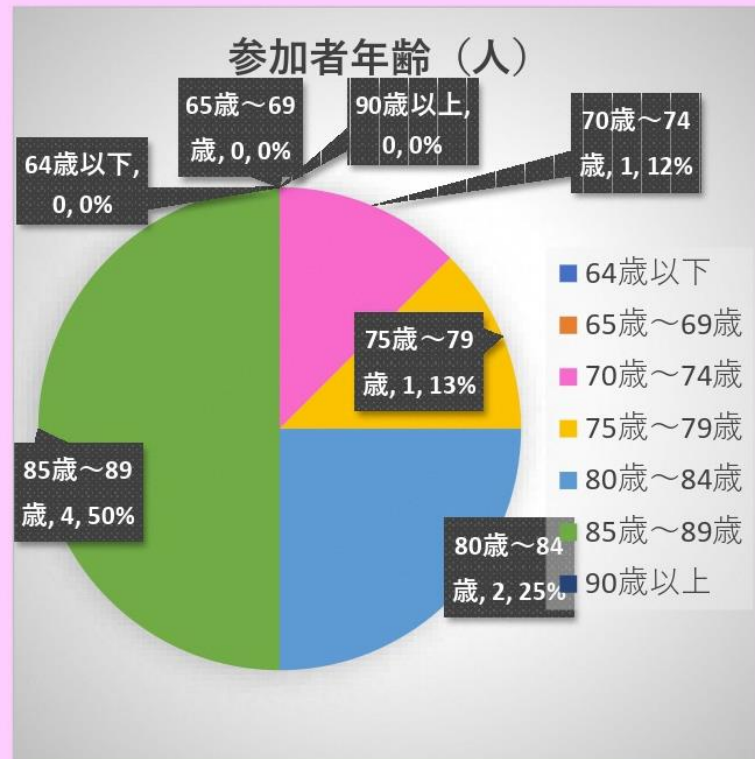


実施における集計

事前

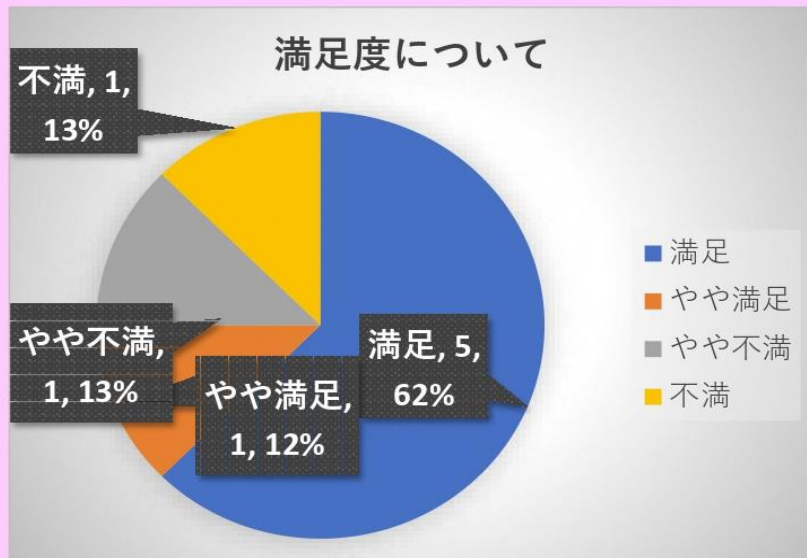


体験後

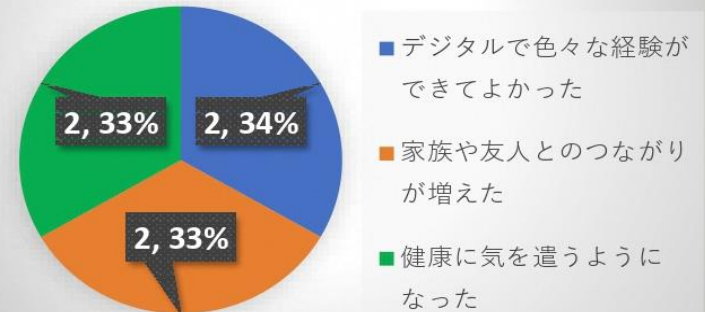


事前説明会参加者：9名
事後報告会参加者：8名

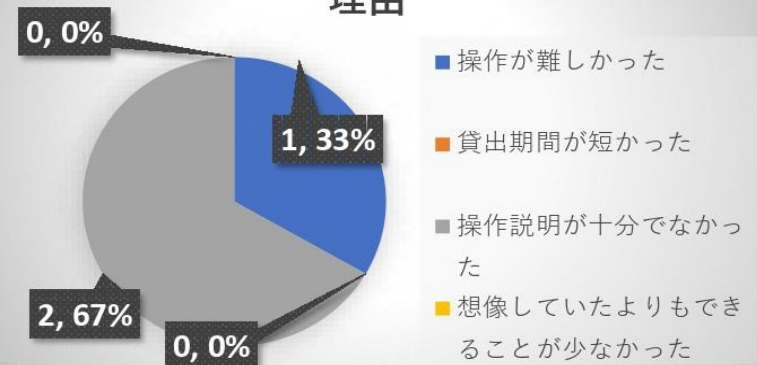
体験後



「満足」、「やや満足」の場合の理由



「やや不満」、「不満」の場合の理由



デジタル通いの場のふりかえり（効果・課題）

感想①

- ・ 器械が難しく使えなかった
- ・ 操作のサポートがあれば良いが1人ではできない

感想②

- ・ デジタル機器の活用を覚える喜びを感じた。良い経験をさせてもらった
- ・ デジタル通いの場での利用だけではなく、写真・ゲーム・音楽など他の機能を使ったため、脳の活性化につながった
- ・ この事業の必要性を強く感じた。
- ・ リアル参加者との会話がとても楽しかった
- ・ 普段会えない人たちを会えることがうれしかった

運営側

- ・ サポート側（金山町担当者）の負担が大きかった
- ・ コロナ禍、コロナ後（ニューノーマル時代）の活動へヒントを得た
- ・ 通信障害、機器トラブルなどへの対応は課題
- ・ リモート参加からリアル参加への可能性